

## 平成30年度 県立下館第一高等学校自己評価表（全日制）

No. 1

目指す学校像	○規律ある生活習慣の確立と人権尊重の精神の涵養に努め、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性の育成を図る学校 ○一人ひとりの生徒の実態を踏まえた、柔軟かつ多様な教科指導と適切な進路指導により、確かな学力の定着と生徒の自己実現を図る学校 ○自主自立の精神を身につけ、自ら学ぶ意欲と力を育てる学校 ○確かな知識を身につけ、国際社会や地域の発展に貢献できる人材の育成を図る学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>平成28年度からは、新学習指導要領・大学入試改革に対応して、主体的・対話的で深い学びの実現を図るため、研修会の実施、外部研修会への派遣、相互授業参観等により、授業改善に着手している。29年度は電子黒板を第2学年普通教室に導入し、ICT機器を活用した授業を展開している。その結果、授業中積極的に発言・発表する生徒が増加した。</p> <p>27年度より重点校として指定された「一人一人が輝く活力ある学校づくり」事業では、グローバルな視野を備え、国際社会や地域社会の発展に貢献する人材の育成を掲げ、「紫西グローバルチャレンジ」事業を積極的に推進してきた。国内留学や海外語学研修を実施した結果、英会話に積極的な生徒が増加し、GTECのスコアも向上している。</p> <p>また、「わかる授業」を展開し、土曜特別講座、夏季特別講座、春季特別講座、平常課外、AC活動など、個に応じた柔軟かつ多様な指導を行うことによって、進路指導における国公立大学への合格者数は93名でほぼ目標を達成できた。</p> <p>今年度は、再度重点校の指定を受けた「一人一人が輝く活力ある学校づくり」事業において、台湾との国際交流事業を軌道に乗せることが課題である。また、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善では、学力向上につながる指導法の研究を進める必要がある。</p>	<p>確かな学力の定着と進路指導の充実</p>	<p>①グローバル人材の育成を目指し、今年度から始まる「紫西グローバルチャレンジⅡ事業」を推進する。台湾への修学旅行、台湾・オーストラリアの高校・大学との姉妹校提携や連携協定を活用した文化交流・語学研修により、国際社会や地域社会で活躍できる生徒を育てる。</p> <p>②相互授業参観や職員研修会、先進校視察、予備校等での授業研修を通じて、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、アクティブ・ラーニングの視点から授業改善に取り組み、「思考力・判断力・表現力を伸ばす授業」を展開する。</p> <p>③日々の授業を大切にするとともに、土曜特別講座、夏季特別講座、春季特別講座、平常課外、AC活動など、個に応じた柔軟かつ多様な指導を行うことによって学習意欲を喚起し、生徒一人一人の可能性を引き出す進路指導に努める。</p> <p>④国公立大学合格100名以上、難関国公立大学合格10名以上、難関私大合格10名以上を目指す。</p>	A
<p>規律ある生活習慣の確立と人権尊重の精神の涵養</p>	<p>規律ある生活習慣の確立と人権尊重の精神の涵養</p>	<p>⑤学校内はもちろん、校外においても元気の挨拶を励行する。</p> <p>⑥自律の精神や自己抑制力の育成を図り、相手の立場に立って考え、行動できる人間の育成に努める。</p> <p>⑦カウンセラーとの連携を充実させると共に、全教職員がカウンセリングマインドに立った指導を行い、心的理由での転退学者数を前年比で減少させる。</p> <p>⑧基本的生活習慣の確立に努め、各学年皆勤者140名以上を目指す。</p> <p>⑨規範意識の高揚を図るとともに、制服の正しい着用や礼儀正しい態度を育成し、校則違反者0を目指す。</p> <p>⑩場を清め、心を清める活動を推進し、清潔な学習環境で落ち着いた雰囲気での学習ができる場の形成に努める。</p>	A
<p>特別活動の充実とコミュニケーション能力の向上</p>	<p>特別活動の充実とコミュニケーション能力の向上</p>	<p>⑪特別活動の活性化を通して生徒相互の融和を図り、より良い人間関係を構築する。</p> <p>⑫部活動は、学業との両立を図り、密度の高い練習を通じて、全国大会など県外大会出場を目指す。（1年生の部活動加入率90%以上を目指す。）</p> <p>⑬学校行事の改善充実を図り、新たな伝統の継承に努める。</p>	A
<p>広報活動の推進と地域との連携</p>	<p>広報活動の推進と地域との連携</p>	<p>⑭ホームページを充実させるとともに、学校案内等を刷新し積極的な情報発信を行い、「開かれた学校づくり」に努める。</p> <p>⑮学校説明会の充実に努めるとともに、中学校・学習塾等への訪問を効果的に実施する。</p> <p>⑯学校評議員会、PTA、同窓会等との連携を強化し、情報の公開に努める。</p> <p>⑰進路だよりや学年通信などの紙媒体、メール配信やホームページなどの電子媒体を活用するとともに、進路講演会・学年PTA・PTA支部学習会等あらゆる機会を活用して、生徒・保護者に進路や学習に関する情報を提供し、連携を深める。</p>	B
<p>いじめの未然防止と早期発見、早期解消の確立</p>	<p>いじめの未然防止と早期発見、早期解消の確立</p>	<p>⑱道徳教育や教育相談等を充実させ、いじめの未然防止と早期発見、早期解消に努める。</p>	A

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科指導	多様な研修の機会を持つ。	教員相互の授業参観を実施し、授業の改善、向上を目指す。②	A	B ・教員相互の授業参観は予定通り実施された。他教科への参観が増えれば良いと思う。 ・中学校の授業参観は高校の指導の参考になる。 ・生徒の学習意欲を高める方法は多くの先生方が実践されている。各教科でその成果の共有が望ましい。	
		各種の研修会に積極的に参加し、それを他の教員に伝達することによって、全体の指導力の向上に努める。特に新教育課程について調査、研究を深める。また、主体的・対話的で深い学びを取り入れた教授・学習法が学力向上につながるための校内研修を企画する。②	A		
	生徒の学習意欲を高め、自学自習を促す。	生徒の実態に即した学習指導方法の工夫改善を行う。調査や調査、提出物の点検、面談等を通して生徒の学習状況の実態把握に努めながら、興味や関心を高める指導を工夫する。②③	B		
		生徒の言語活動の充実を図りながら、考える機会を多く持たせることによって思考力や判断力、表現力を向上させる。①②③	B		
国語	家庭学習の励行を推進する。	日常生活において自学自習の習慣を確立させ、積極的に教科に対して向き合う姿勢を作らせる。課題に自主的に取り組ませる。③④	B	B ・与えられた課題に取り組みさせるだけでなく、自ら計画し主体的に取り組む姿勢を育む。 ・新テストの導入を見据え3年間を通じた思考力・判断力・表現力の育成を検討する。 ・ICTを活用した授業を行う。 ・課題や副教材が多くなりすぎ、手の運動(答えの丸写し)になってしまっている。このままでは努力に応じた力が付かない。他教科との擦りあわせが必要。	
		定期テストや模擬試験の事後処理として、出来なかったところを確認し、また苦手分野を理解させ、今後の自学自習の目安を立てさせる。③④	B		
	進学に対応できる読解力・表現力の身につく授業を実践する。	生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばすため、グループワーク、ディベートを授業の中で積極的に取り入れる。②	A		
		年間計画に基づく計画的な授業を実践し、生徒に入試に必要な実力を付けさせるとともに、教養としての国語の力を高めさせる。③④	A		
		読書環境を整える。朝のH・R前の読書時間を学年全体の指導として確保したり、教材に合わせた図書紹介を行ったりするよう努める。③⑥	B		
		公開授業、職員研修会、予備校等での授業研修を通じて、教員側も授業内容や指導方法について研鑽を積み、授業改善に努める。②	B		
	地歴・公民	わかりやすい授業、興味関心を喚起する授業を行うと共に新課程に対応した教科指導に努める。	新聞、映像、副教材等を有効に活用し、わかりやすさを心がける。また、生徒の進路希望及び新課程に対応した授業を実践する。②③		A
			授業担当者がお互いに授業を見学し、研究協議などを行う。②		B
			各種研究会に参加し、授業内容へのフィードバック・教科内における情報共有に努める。②		B
			生徒の能動的な授業への参加を取り入れた学習法を工夫する。②③		B
一般教養としても役立つ内容を盛り込む。		時事的内容を盛り込み、学習内容を身近なものになるように努める。②③	A		
		小論文や論述問題にも対応できるように努める。③④	A		
授業開始と終了の際のメリハリをつける。	生徒の授業準備などが速やかに行われるように指導する。⑧	A			
教科	基礎学力の向上を図る。	授業の開始と終了時刻を厳守する。③⑩	A	B ・生徒が主体的に活動する授業を展開する。 ・指導力向上のための研修等に積極的に参加する。 ・学年を超えて常に情報交換を行い、3年間を見通した指導を検討する。	
		年間学習計画に沿うよう交換、補填で授業時間の確保に努める。③④	A		
		章末テスト等を利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒へは、補習を実施する。③④	A		
		学習内容を定着させるため、休み時間、放課後等に質問を受ける体制を整える。③④	B		
	家庭学習習慣の定着に努める。	課題に取り組ませ、家庭学習の習慣をつける。④	B		
	自ら学ぶ意欲を育めるよう、授業の改善に努める。	授業終了後に指導内容を点検し、次の授業改善に活かす。③	B		
	学習実態調査に基づき、生徒の実態に即した指導法を工夫改善する。特にグループワークやグループディスカッションなど主体性のある授業を展開する。②③	C			

※評価基準 A：非常によいので努力を続ける B：よいので更に努力する C：ふつうだが今一步の努力である D：やや不十分で努力を要する

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科	数学		学年を超えて教科内で指導内容を話し合い、授業公開を利用して、授業内容・指導法を研究する。特にコンピュータを活用した授業を研究する。②	B	
	理科	分かりやすい授業、興味関心を喚起する授業を提供する。	時事ニュースや最先端の研究テーマを取りあげ興味関心を喚起する。②③	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの校務に追われ、実験や理科の研修への参加等が不十分であった。校務の軽減、効率化を図り、これらを充実させたい。</li> <li>実験については、さらに実験器具の整備や教員間で準備を協力する等の工夫も考えていく。</li> </ul>
			教材・発問の工夫や実習助手の協力による実験の実施、更に効果的なコンピュータを活用した授業を展開する。②③	B	
			資料集を活用し、身近な自然現象に関連をもたせる。②③	B	
		自然現象に関する問題提起をし、理科学的な思考や発想を身につけさせる。	生徒同士での話し合いやグループ活動などを活用して、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業づくりを行う。②③	A	
			単元ごとに関連した実験観察を実施し、考察力を養う。①②	A	
			進学に対応できる思考力・判断力・表現力を伸ばす授業を目指す。	受験頻出問題を単元ごとに取り込み、演習時間を確保する。③④	
	生徒個々の習熟度に応じた指導をする。	理科に関連する研修へ積極的に参加し、各自研鑽に努める。②	B		
		課外の実施、学習内容の深化のため適宜質問応答の時間を設ける。②④	B		
	保健体育	保健の教科書・ノートにそった授業を展開する。	単元目標にそった授業計画を毎時間立案出来るようにする。①③	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康や環境に興味関心のある生徒が多いので、資料やICT機器を更に活用し、グループ学習など主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を実施する。</li> <li>体力テストで全国平均を下回る種目を強化するために、年間を通して補強運動や体づくり運動に取り入れる。</li> </ul>
			授業を通じ健康観や人生観の向上を図る。	資料やICT機器を活用し、グループ学習など主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を実施する。①②	
		現代社会の中で心身共に健康に生きる為の知識の習得に努める。	生涯を通じた健康作りの基礎を身につけさせる。②	A	
			保健ノートのまとめの問題を定期的に点検し、確認テストを行う。②	B	
基礎体力の向上を図る。		年度始めに各学年とも補強運動や体づくり運動の時間を設ける。②⑤⑪	A		
		ゲームの進め方を工夫し生徒の運動量を確保する。②	A		
種目ごとの技術の向上を図り、スポーツの楽しさを味わい運動習慣の定着に努める。		各種目毎に経験者をグループ内に配置し、高い技術に触れる。②	B		
		バランスを考えたグループを作り、全員が楽しめるゲームができるようにする。⑪	A		
スポーツを通してルールを守る習慣を定着させる。		ゲームにおいて互いに審判を経験することで、ルールを覚え、各競技の楽しさを知る。②	A		
音楽		学習する題材を精選してカリキュラムの組織化を行うことにより、生徒が音楽についての学びを深められるようにする。	学習指導要領変遷の背景や本校生徒の実態に加えて、各大学が求める人物像について深く知った上で、大学教育に密なつながりをもつ授業を展開することにより、進学校の特色を生かした音楽的教養の高い生徒を育てる。①②③④	A	
	生徒の学びを授業の中心に据え、学習内容について実感を伴いながら且つ自己との関わりの中で理解できるようにしたり、変化する状況に応じて主体的に活用できる技能を習熟・熟達させることができるようにしたりすることにより、深い学び・対話的な学び・主体的な学びを実現させる。①②③④		A		
	授業を「生徒が見失われる場所」ではなく「生徒が見出される場所」として位置づけることにより、生徒が学習者としてお互いを尊重し合えるようにする。	対話的な応答関係にもとづく授業を行い、生徒が自分の「居場所」を実感できるようにする。①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑬⑱	A		
		テキストに根拠をおいた音楽的な感受に裏づけられた独創性を高く評価する。①②③④	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科	音楽	仲間と共に協同的に文化や新しい価値を創造する過程を大切にし、生徒がその喜びを実感できるようにする。	「主題設定－探究活動－表現発表」という螺旋構造による授業形態を組織し、グループや学級単位での学習活動を多く展開する。 ① ②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑬⑱	B	
			年間を通した学習成果の発表の場として、校内第1学年合唱コンクールを開催する。 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑬⑭⑮⑯⑰⑱	A	
美術	授業研究に取り組み、指導法の工夫、改善を図る。	生徒一人一人の進路希望の実現を目指す。	豊かな想像力や感受性を養うため、個別指導に重点をおき、個性を尊重した指導を行う。 ③⑩	A	A
			自画像表現を通して、観察力を養い、自分と向き合う時間を作る。 ③⑩	A	
			鑑賞教育の充実を図り、文化や歴史への興味を深めさせる。 ①	B	
			美術系大学の進路希望者に対して、デザインやデッサンなどの実技試験の対策を行い、進路希望の実現を目指す。 ③	A	
英語	授業時間を大切にする。	チャイム着席を徹底し、授業時間を確保する。 ③	A	B	・新入試を見据え、3年間を見通した指導方針を検討するとともに、生徒の実態に合った適切な教材選定をする。 ・パフォーマンステストの導入及び評価方法を検討する。 ・中学高校間のギャップを埋めるための語彙力向上の方策を更に研究する。
	指導力の向上を図る。	授業を公開し、授業内容・方法等について教科内で研究協議する。 ②	B		
	授業や家庭学習に主体的に取り組む意欲を育てる。	生徒がコミュニケーション能力を付けられるよう、指導法を研究・工夫する。 ②③	B		
		音読やリスニングを多く取り入れ、学習内容の定着を図る。 ①②	A		
		英語で発表する場を与え、主体的に授業に取り組めるようにする。 ①②	B		
	生徒の学習状況を把握する。	提出物等も成績に加味し、学習に取り組む態度を向上させる。 ②③	A		
ノート等を提出させ、生徒の家庭学習状況や理解度を把握する。 ③	B				
家庭	学習意欲を高める授業を展開する。	小テスト等で学習の理解度を把握し、必要なら補習等を実施する。 ②④	B	B	・興味関心を持てるよう、導入としての実験の時間を確保する。 ・単元の中にマナーの基本を取り入れる。
	思考力・判断力・表現力を育てる授業を展開する。	実験・実習・体験学習、AL等多様な方法で授業を実施する。 ②③	B		
		異文化（台湾等）についての教材を取り入れ、興味関心を喚起する。 ①⑬	B		
		四観点を意識したワークシートを作成し、考えを表現させ記入した分を点数化する。 ②③	B		
環境整備に努める。	家庭科に関する新聞の切り抜きを年8回実施し、小論文やホームプロジェクトに繋げる。 ⑱	B			
	グループ実習時において、実験実習時の時間を有効する。 ⑥	B			
情報	思考力・判断力・表現力を伸ばす授業を实践し、生徒の「情報活用力」、「情報を科学的に理解する力」、「情報社会に参画する態度」の三つをバランスよく養う。	マナーの基本を身につけさせる。 ⑨	A	B	・実習に於ける個人差を考慮した指導の工夫をする。 ・情報化の新しい知見を取り入れる。
		学習環境を整え、安全な実験・実習を行う。 ⑩	A		
		情報社会の現状や仕組みについての知識を習得させ、確認する。 ②⑥	B		
		情報活用や情報モラルの知識・理解をレポート等により確認する。 ②⑥	B		
実習は内容ごとにワークシートを作成し、終了後に提出させる。 ②⑥	B				
実習において、様々な情報を分析・整理し、プレゼンテーションさせることで、思考力・判断力・表現力を育成する。 ②④	C				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教務	特色ある教育課程の編成及び運営に努める。 授業時間の確保に努める。	各学年・各教科・各校務部との連絡調整を行い、将来を見据えた、より良い教育課程や時間割の編成や運営に努める。①②	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度の時間割変更に関しては、全職員と共通理解を図ることができ、本年度の目標である自習時間5%以下を達成することができた。次年度は、本年度以上に自習時間を作らないように努めていきたい。</li> <li>定期考査・到達度テスト等の集計結果を新統合システムに移行したが、入力用のパソコンが2台であったため、成績処理に時間を要した。次年度は、学年毎に使用できるようなパソコンの増設を検討したい。</li> <li>観点別学習状況評価が、生徒の学習実態を反映するように更に工夫する。</li> <li>本年度、教務部とネットワーク管理部が統合したことにより、役割分担が増えたが、例年通りネットワーク・校内LAN等の運用を管理することができた。</li> <li>近隣中学や地域へ、学校の取り組みを正確に発信し、理解を得られるように工夫する。</li> </ul>	
		出張・年休などの際の振替・填補を必ず行う。また、自習時間をなるべく作らないようにし、自習時間を5%以下とする。③	A		
		毎日の日程を調整し、授業の開始と終了時刻を厳守する。③	A		
		学校行事や授業日程が特定の曜日・時間に偏らないようにする。③	A		
		時間割変更などに関して、全職員と共通理解をはかり、毎日の適切な時間割を立案する。③	A		
	各校務部・各学年・各教科などとの連携を密にし、円滑な学校運営を図る。	各校務部・各学年・各教科などとの連絡を密にし、各行事の日程や内容などの情報収集に努め、その円滑な運営や改善を図る。⑪	A		
		定期考査などの円滑な運営を図る。	定期考査・到達度テストなどの企画立案、時間割の作成とともに、新統合システムへの移行を図り、円滑な運営に努める。③		A
			各教科との連絡を密にし、観点別学習状況評価の適切な実施を図る。②③ 欠席者の扱いを明確にし、追考査等の措置を取る。③		A
	教育活動の公表に努め、生徒及び保護者とのコミュニケーションの向上を図る。	館一メールやHPを利用し、行事計画などの情報を保護者などに連絡する。⑭	A		
		学校案内、シラバス、様々なパンフレットの作成を通し、目指す学校像等を地域や中学校に広く発信していく。⑭⑮	B		
	生徒の進路希望実現のための情報共有と活用できる環境を整備する。	進路指導部と連携して大学情報等のデータ更新などサポートを心がけ、生徒の進路計画を立てやすくする。④	A		
	ICT環境を整備し、校務の効率化を図る。	各教室のパソコンの定期的な点検整備を行い、ソフトウェア・ハードウェアの更新を進める。電子黒板等ICT機器の整備を図る。②	A		
		公文書等の処理システムの円滑な運用をサポートする。	B		
	個人情報および構内情報システムのセキュリティを確保する。	ネットワークに関わる情報の提供に努める。	A		
		外部記録媒体の管理をする。	A		
成績処理用にクローズされた校内LANを併せて整備し、管理する。		A			
校内LANのセキュリティ管理をする。サーバー等を整備し、個人データの管理を徹底する。		A			
開かれた学校づくりを目指し、保護者や地域と連携を図る。	メール利用による学校情報発信のための環境整備とPRを図り、館一メールの登録・更新を推進する。⑭⑯	B			
	各校務部・各学年・各教科などとの連携を密にし、ホームページの内容等を検討する。また、頻繁な情報更新を心掛け、地域への情報発信を行う⑭	A			
生徒指導	心の教育の充実に努める。	挨拶の励行とマナーアップの推進に努める。特に挨拶については、毎月の生活目標を示したプリントを教室掲示し、また放送で呼びかけるとともに、さわやかマナーアップ週間の登校指導と連動させ継続的に指導していく。⑤⑥	B	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
		保護者には入学予定者説明会・入学式後の保護者懇談会・三者面談時などを利用して礼儀やマナーの指導を呼びかける。生徒には毎月の生活目標を示したプリントを発行して励行を促す。被害調査を実施し、問題の予防や早期対応に努める。⑤⑥	B	<p>先生による「カウンセリング研修会」が年度末になってしまったので、来年度は年度当初に実施し、先生方の共通理解と学校全体で対応するような体制作りを考えていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度の校則違反者は0であったが、苦情は寄せられている。マナーアップに努めたい。</li> <li>・基本的な生活習慣が確立されている生徒が多い。来年度も、遅刻の多い生徒に対して、生徒指導部、学年と協力体制をとって継続的に指導していきたい。</li> <li>・盗難等の被害はなかったが、貴重品の管理や自転車の施錠などできていない生徒もいるので、注意喚起していきたい。</li> </ul>
		スクールカウンセラーと連携し教育相談の充実に努める。教職員対象のカウンセリング研修会を実施し、全ての教職員で心の指導にあたる体制づくりをする。また、カウンセリング・サポート係が中心となって、心の問題を抱える生徒に早期に対応する。⑥⑦⑱	A	
	服装をきちんとさせるなど、規範意識の向上に努める。校則違反者0を目指す。	学年・担任・授業担当者による指導や呼びかけを徹底する。毎月実施するさわやかマナーアップ週間の登校指導、集会時における生徒への呼びかけを通して、服装をきちんと着用させ、規範意識の向上に努める。⑤⑥⑨	A	
		本校指定の白ポロシャツの定着及び指導を徹底し、生徒の夏のさわやかな服装を学校全体で実現する。⑨	A	
	基本的な生活習慣の確立に努める。各学年皆勤者140名以上を目指す。	欠席・遅刻生徒を減らすために、各学年、担任と協力体制をとって指導にあたる。遅刻の多い生徒に対しては、生徒指導部、学年と協力体制をとって継続的に指導していく。⑧⑩	B	
		毎月実施するさわやかマナーアップ週間の登校指導などにおいても、時間の厳守を呼びかけ、遅刻生徒の減少に努める。⑤⑧	B	
	安全で有意義な学校生活の実現に努める。	登校指導、自転車・バイク点検の際に、交通マナーアップなどの安全指導を実施する。⑥⑨	B	
		教室を離れる際は、貴重品袋の利用を呼びかける。また、学年の協力のもと教室の施錠や自転車置き場の巡回も必要に応じて実施する。⑨⑩	B	
		交通安全委員を中心にPTA・警察・地域社会と連携しながら交通安全キャンペーンやバイク講習会を実施する。⑤⑨⑱	B	
	ケータイ・ネットの安全利用や薬物乱用防止教育の充実に努める。	ケータイ・ネット安全利用を呼びかける。薬物乱用防止講習会(1年)を実施する。また、集会時においても危険性を訴えていく。⑥⑨	B	
進路指導	各学年と連携し、キャリア教育の充実に努める。	生徒の進路希望動向を的確に把握する。③④	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路相談、学習相談、担任面談の棲み分けをはっきりさせる。どんな時に進路相談or学習相談に行くべきか、生徒に明確に伝わっていない。更に、学習指導部と調整する必要がある。</li> <li>・現在進行中の大学入試改革の情報を整理して、現1学年だけでなく、学校全体としての取り組みを軌道に乗せる。</li> <li>・「進路の手引き」の配布時期と配布目的をはっきりさせ、</li> </ul>
		各学年で計画的に進路講演会を実施する。③④	A	
		企業見学、大学見学会の実施や、オープンキャンパスへの参加を勧めることによって、できるだけ早期に進学等の目的を明確にさせる。①③④	A	
		紫西プレカレッジを実施し、様々な学問への興味を喚起させる。①③④	A	
		生徒が大学等の情報を身近に閲覧できる環境の整備に努める。③④	B	
		進路通信や進路の手引きを発行して、生徒や保護者への進路情報の効果的な発信に努める。③④⑭⑰	A	
		各学年に適切な進路情報を提供する。③④	B	
	文書や情報を共有化し、業務の流れを明確にする。③④	B		
学習指導部と連携し、確かな学力に基づいた進路実現を支援する。	国公立大合格100名以上、難関国公立大学合格10名以上、難関私大合格10名以上を目指す進路指導の体制を整える。①②③④	B		
	外部模試を計画的に実施する。③④	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
	教員の進路指導力を高める。	模試の結果動向を把握し、適切な進路選択に結び付ける。 ③④	B	生徒の進路指導に、更に有効に活用する。
		進路相談を実施し、学年の枠を超えて生徒に適切な進路情報を提供し、個々の進路実現を支援する。 ③④	C	
		進路指導に関する研究会等に積極的に参加し、情報の収集と指導力の向上を図り、他教員に還元する。 ②③④	B	
		卒業学年による進路報告会を開催し、3年間を見据えた進路指導に生かす。 ②③④	A	
学習指導	課題を調整する。	学年用ホワイトボードを活用し、平常課外、課題の内容、小テストの回数を視覚化し課題の調整を図る。各教科間の垣根を外し、生徒の実態に応じた課外の設定、課題の精選を促す。 ③④	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習相談はその目的の不明確さもあり、うまく機能しなかった。次年度は進路指導部とも話し合っ、改善していきたい。</li> <li>・ACは「全ての生徒を1ランクアップする」ことを目的にしている。難関大合格の支援(SAC)もその活動の一つである。</li> <li>・現在多くの中学校で行われている授業の参観は参考になる。次年度は職員の参加を促進したい。</li> <li>・定期テストで新テストに対応する内容の設定が次第に増えている。引き続き、各教科の対応を促していく。</li> </ul>
	部活動等との両立を支援する。	部活動入部者に平等にも課外の機会を与え、成績不振に陥らないように、顧問と連絡を取りながら、適宜、学習相談や補習を行う。 ③④⑫	B	
	生徒の学力向上を支援する。	定期テストの結果、模試結果、毎月の自学自習時間調査(平日は学年+2時間以上が目標)のデータを有効に活用し、各学年・教科の数値目標を設定する。また、長期休業前に学年毎に「学習アドバイス」を編集・配付する。 ③④	A	
	教員の授業力を高める。	6~10月にかけて、各教科で校内授業公開を実施する。公開授業を、教科内メンバーが参観し、意見交換の機会を設け、自己の指導法を振り返る。また、授業アンケート週間をつくり、前期と後期にアンケートを実施する。 ②	A	
	成績下位者の支援を行う。	各教科・学年の成績不振者対策を一元化し、定期考査事前指導を組織的に実施することにより、欠点者ゼロを目指す。 ③④	B	
	AC(アドバンスクラス)活動の活性化を図る。	模擬試験の結果等を踏まえ、「AC報告会」を開催し、独自の目標及び活動内容を確立・実践する。更に、AC活動を全生徒に開き、学年全体の学力向上に寄与する。また、新任者用にAC説明会を開き、ACについての理解を深める。 ①③④	B	
	土曜特別講座及び平常課外・長期休業中の課外を組織的に行い、生徒の学習時間確保に努める。長期休業中の課外はその内容及び日数について継続して検討を加える。	土曜特別講座を実施する(年間10回以上)。 平常課外を実施する。 1年(6月から英数国を週1回ずつ実施) 2年(5月から英数国を、10月から理社を加えて週1回ずつ実施) 3年(4月から全科目を実施) 夏季休業中に特別講座を実施する。 1・2年(英数国9日間)、3年(英数国7日間、理社10日間) 春季休業中に特別講座を実施する 1年(英数国3日間) 2年(文系:英国+日/世/数、理系:英数+物/化/生、3日間) ③④	B	
特別活動	特別活動を通して、豊かな人間性を養う。	生徒会と執行部が中心となり、生徒の自主的かつ充実した活動を増やす。 ⑪⑬	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会活動の活性化。</li> <li>・クラスマッチの実施時期の検討と、準備期間の確保。</li> </ul>
		各種委員会の活動内容を明確にし、充実した活動と活性化を目指す。 ⑪	B	
		芸術鑑賞会において本物の舞台芸術を体験させ、心身の充実を図る。 ⑬	A	
	学校行事を充実させる。	全生徒・職員への連絡を周知徹底し、体育祭への各自の積極的な活動を通して生徒一人一人のコミュニケーション能力の育成と、より良い人間関係を構築する。 ⑪	A	

※評価基準 A: 非常によいので努力を続ける B: よいので更に努力する C: ふつうだが今一步の努力である D: やや不十分で努力を要する

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
		全生徒・職員への連絡を周知徹底し、クラスマッチへの各自の積極的な活動を通して生徒一人一人のコミュニケーション能力の育成とより良い人間関係を構築する。 ⑪	B		
	部活動の充実を図る。	部員数の少ない運動部や文化部への加入率を増やし、部活動全体への加入率を90%に上げ、部活動の活性化を図る。 ⑫	A		
環境衛生	健康教育を推進し、心身ともに健康に生きるための知識と能力を育て、健康に対する意識の高揚を図る。	風邪やインフルエンザなどの感染症の予防や啓発に努める。 ⑩	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教室のクリーニングの実施</li> <li>・美化委員の指導</li> <li>・校内美化の予算の増加</li> <li>・トイレの改装</li> <li>・清掃場所の変更</li> </ul>	
		性教育・喫煙防止教育・薬物乱用教育を、外部講師を招聘し1年次に実施する。 ⑬	A		
		個別面談を実施し、生徒の心の問題を解決する。また、スクールカウンセラーとの連携も密に取り、落ち着いた状態で学習に臨めるようにする。 ⑦	A		
	健康で安全な学校環境の整備及び美化に努める。	月1回のペースで、環境衛生部職員が校内を巡視し、清掃用具の破損や不足を確認して、清掃が滞りなく行えるように環境を整備する。 ⑩	B		B
		避難訓練を通して、非常時にも冷静沈着な行動を取れるようにする。 ⑩⑬	A		
		年1回のクリーンアップ作戦を通して、地域の美化対策に協力し、また清潔な環境整備の重要性も指導する。 ⑩⑬	A		
		毎日の清掃活動を指導し、清潔な学習環境整備に努める。 ⑩	B		
	保健室の適正使用を指導する。 ⑦⑧	B			
図書	図書館の環境を整える。	展示・装飾を充実させる。 ①④	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸出冊数の増加に繋がる工夫(図書館のレイアウト・新刊案内など)</li> <li>・学級文庫や希望図書の充実</li> </ul>	
		配置レイアウトを工夫する。 ①⑩	B		
	図書館の利用率をアップする。	発展的、探究的な学習につなげられるような資料、情報を収集し提供する。 ①	C		B
		「読書会」を実施する ④	A		
	視聴覚関連の環境の充実	DVDソフトを充実させる。 ⑩	C		
	図書の廃棄をおこなう。	適切な廃棄と更新をおこなう。 ⑩	B		
渉外	PTA諸行事への保護者の参加率を高める。	PTA総会及び支部総会への参加率を70%以上に高めるため、近隣の小中学校と日程の調整を図ると共に、ホームページや館一メール等を利用して広報活動を行う。PTA活動の内容を広報紙や、面談時の学年便り等を通して啓発する。 ⑭⑯⑰	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA総会に多くの保護者が参加してもらえるよう継続的な努力が必要である。</li> </ul>	
	PTAの活動を充実させ、活動に対する保護者の意識高揚を図る。	校内外で開催される各種PTA会合に積極的に参加し、多くの情報や資料を収集するとともに、その研修成果を活かすように努める。 ⑯⑰	B		
	学校と家庭の連携を図り、協力体制を深め、生徒の学校生活を充実したものにす。	充実した学習環境を築くため、保護者・職員からの要望や意見を集約し、その実現に向けた支援を行う。 ⑯⑰	B		
		保護者と職員の間での情報交換を行い、共通理解の下に、生徒の生活上の変化や問題点を把握し、指導の協力体制を確立する。 ⑯⑰	B		



評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
1年	学習習慣の確立と基礎学力の育成	授業に集中して取り組みませ、予習・授業・復習の学習サイクルを確立させる。 ③④	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習時間の確保が急務である。家庭学習の習慣を身につけさせ、1日3時間以上の学習時間を確保させるための具体的な方策を検討する。</li> <li>・ACを有効に利用し、上位層の育成を目指す。</li> <li>・携帯電話の適切な利用について、講演会を行うなど、対策を検討する。</li> <li>・ポートフォリオの作成など、新入試制度への対応を学年全体で行う。</li> </ul>
		手帳を使った自己管理を指導することで、家庭学習を習慣化させ、1日3時間以上の学習時間を確保させる。 ③④⑧	C	
		教員は、ALを取り入れた教授・学習法を研究し、生徒が主体的に学べる授業を行うように努める。 ①②③④	B	
	基本的な生活習慣の確立	挨拶の励行に努め、遅刻・早退・無断欠席などの指導を徹底する。 ⑤⑧⑨	A	
		服装・頭髪の指導を徹底し、制服を正しく着用させる。 ⑥⑨	A	
		清掃をきちんと行わせて、学習環境を整えさせる。 ⑥⑩	A	
		毎朝、読書に取り組みませ、朝から落ち着いて過ごせる環境をつくらせる。 ⑥⑦⑧⑩	A	
	進路目標の決定	HRにおける進路学習、行事（紫西プレカレッジ・企業訪問等）、個別面談などを通して、適正な文理選択及び進路選択につなげる。 ①③	A	
		AC活動などを活用することによって、高い進路目標を設定し、挑戦させる。 ①③④	B	
		新聞スクラップの指導を通して、社会全般に目を向けるように促し、多くの社会問題に興味を持たせる。 ①④	A	
	コミュニケーション能力の育成	部活動・委員会活動・学校行事などに積極的に参加させ、コミュニケーション能力の向上を図れるように指導する。 ①⑪⑫⑬	A	
		生徒が生き生きと活動できるような学年行事を企画、実行していく。 ①⑬	A	
	いじめや不登校生徒の早期対応	定期的な調査より、いじめを早期発見し、早期解消に努める。 ⑱	B	
		各教員の細かい観察を元に、カウンセラーや保護者と早期に連携し、困難を抱える生徒に適切な支援を行う。 ⑦⑱	A	
道徳教育を通して、他者を尊重する態度を養う。 ⑥⑱		B		
2年	基本的な生活習慣の確立	挨拶を励行させ、遅刻・無断欠席などの指導を徹底する。 ⑤⑧⑨	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による自学スタイルの定着を図るため学習計画表以外の方策を検討する必要がある。</li> <li>・道徳教育に関しては、LHRしかなく、年間予定で固定されているものを除けば21時間しかない。そのなかで2学年は修学旅行事前準備、進路指導があり、いわゆる授業として道徳を当てることは非常に難しかった。今後は授業ではなく、部活動や普段の生活規範の中で道徳教育を意識していく必要がある。</li> </ul>
		定期的に服装・頭髪検査を行い、校外での身だしなみを意識させる。 ⑥⑧⑨	B	
		朝読書に取り組みませ、朝から落ち着いて過ごせる環境をつくらせる。 ⑥⑦⑧⑩	B	
		授業前予習を徹底させ、55分の授業を有効に活用させる。 ②③	B	
	学習習慣の改善と基礎学力向上	生徒の自学スタイルを確立させ、週30時間を目標とする。 ②③	C	
		学習計画表を月ごとに配布・回収し、生徒一人一人の学習状況を把握し、面談等を通して、アドバイスを与える。 ②③	A	
		AC活動への積極的参加を促し、切磋琢磨して学習に取り組ませる。 ③	B	
		新聞スクラップノートを活用して、様々な分野での思考力・表現力を育てる。 ②	A	
	進路目標の決定	面接や志望理由書、進路講演会などを通して、高い進路目標を持つように促す。 ③⑱	B	
		HR・行事（大学見学・オープンキャンパス等）・体験学習等を積極的に勧めて、具体的な進路を決定させる。 ②③	A	
教員は配慮を必要とする生徒を早めに把握し適切な指導を行う。 ⑥⑦⑪⑱		B		

※評価基準 A：非常によいので努力を続ける B：よいので更に努力する C：ふつうだが今一步の努力である D：やや不十分で努力を要する

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
	コミュニケーション能力の向上	生徒は学校の中堅として、部活や学校行事に積極的に参加し、コミュニケーション能力の向上を図る。 ⑥⑪⑫⑬	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝読、遅刻指導は継続して指導して中だるみをおさえることができたが、次年度以降の意義を再検討する必要性がある。</li> </ul>
		台湾修学旅行を通して、海外でも多くの人と交流し、地域社会での海外との架け橋になることを意識させる。 ①	B	
	いじめや不登校生徒の早期対応	定期的な調査より、いじめを早期発見し、早期解消に努める。 ⑱	B	
		各教員の細かい観察を元に、カウンセラーや保護者と早期に連携し、困難を抱える生徒に適切な支援を行う。 ⑦⑱	A	
		道徳教育を通して、他者を尊重する態度を養う。 ⑥⑱	C	
3年	基本的な生活習慣の確立	挨拶を励行させ、遅刻の指導を徹底する。 ⑤⑥⑧⑨	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の方法が最後まで確立できなかった生徒は、伸び悩んだ。テストの点数よりも、学力がついているという実感が、学習の方法を見つける手助けになると考える。</li> <li>・その場に合った服装や挨拶、時間やルールを守ることの大切さを理解させる指導を心がける。</li> <li>・教員間の共通理解や情報共有できる体制作りは、大切なので、疎かにすることなく意識を強く持って続けていく。</li> </ul>
		清掃を励行させ、快適な学習環境を整える。 ⑧⑩	B	
		服装・頭髪を整えさせる。 ⑧⑨	C	
		配慮が必要な生徒には適切な指導を行う。 ⑥⑦⑪⑱	B	
	自学自習の確立	予習復習を徹底させ、55分の授業を有効に活用させる。 ②③	B	
		自己の学習スタイルを確立し、1日平均5時間以上の自学自習を確保する。 ③④	B	
		教員は新しい教授・学習法を研究し、生徒が主体的に学べるような授業を行うよう努める。 ②③	A	
	コミュニケーション能力とリーダーシップ能力の向上	部活動や学校行事を通して、最上級生としての役割と責任を自覚し行動する。シップを発揮する。 ⑪⑫⑬	A	
		HR活動等において、他者と積極的に関わり、協力することの大切さを知る。 ⑪⑱	A	
	進路目標の達成	AC活動を通して、高い目標への挑戦を続ける。 ①③④	A	
		課外、小論文指導、面接指導等個々の生徒に応じた進路指導を行う。 ③④	B	
		個別面談を通して、生徒の進路希望及び学習状況を把握する。 ③④	A	
		教員間での情報共有に努め、変化する大学入試に対応できる体制を作る。 ①②③④	B	